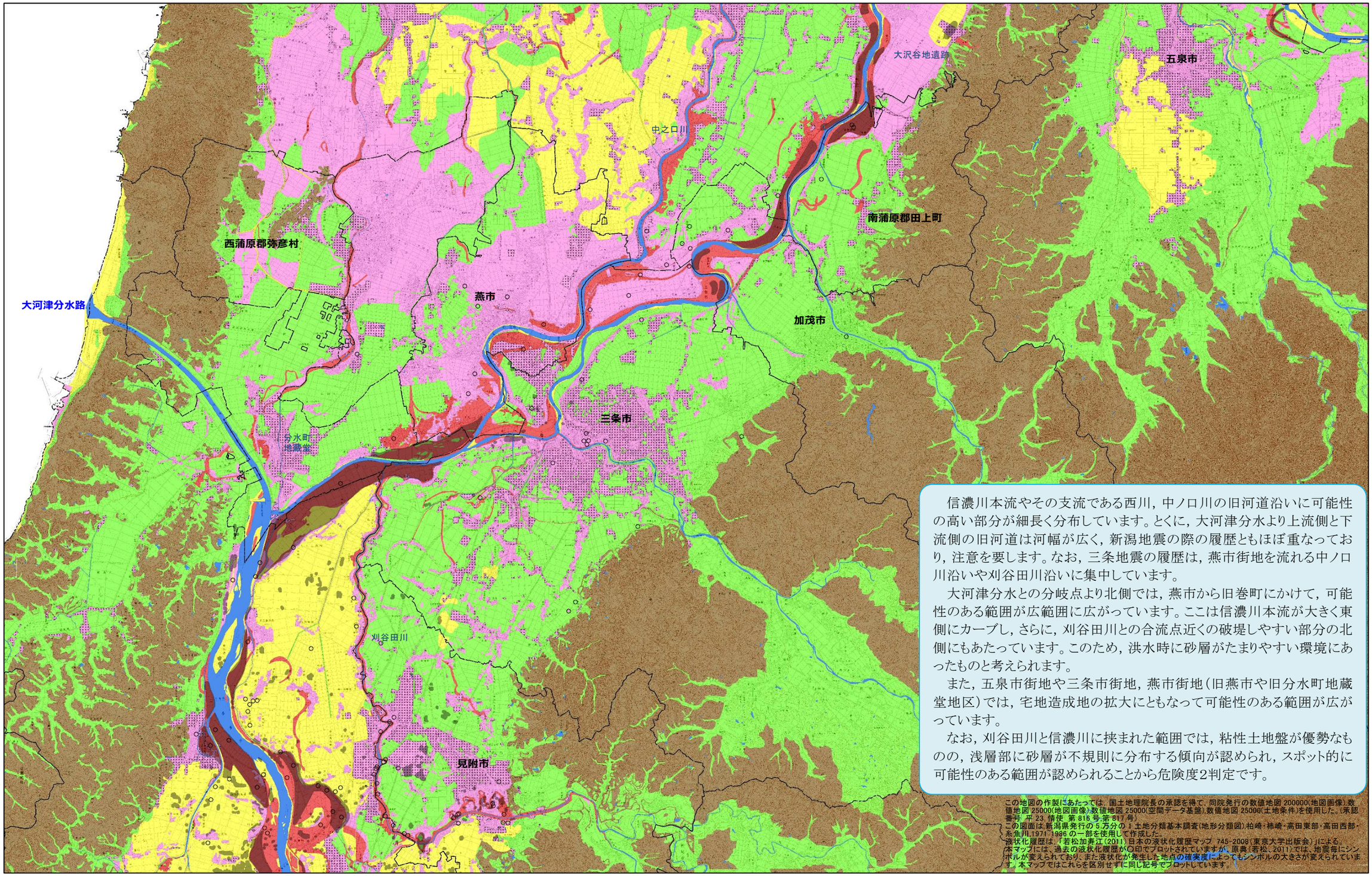
三条・燕地域



信濃川本流やその支流である西川，中ノ口川の旧河道沿いに可能性の高い部分が細長く分布しています。とくに，大河津分水より上流側と下流側の旧河道は河幅が広く，新潟地震の際の履歴ともほぼ重なっており，注意を要します。なお，三条地震の履歴は，燕市街地を流れる中ノ口川沿いや刈谷田川沿いに集中しています。

大河津分水との分岐点より北側では，燕市から旧巻町にかけて，可能性のある範囲が広範囲に広がっています。ここは信濃川本流が大きく東側にカーブし，さらに，刈谷田川との合流点近くの破堤しやすい部分の北側にもあたっています。このため，洪水時に砂層がたまりやすい環境にあったものと考えられます。

また，五泉市街地や三条市街地，燕市街地（旧燕市や旧分水町地蔵堂地区）では，宅地造成地の拡大にともなって可能性のある範囲が広がっています。

なお，刈谷田川と信濃川に挟まれた範囲では，粘性土地盤が優勢なものの，浅層部に砂層が不規則に分布する傾向が認められ，スポット的に可能性のある範囲が認められることから危険度2判定です。

この地図の作製にあたっては，国土地理院長の承認を得て，同院発行の数値地図 200000(地図画像)，数値地図 25000(地図画像)，数値地図 25000(空間データ基盤)，数値地図 25000(土地条件)を使用した。(承認番号 平 23 情使 第 816 号・第 817 号)
この図面は，新潟県発行の 5 万分の 1 土地分類基本調査（地形分類図）柏崎・柿崎・高田東部・高田西部・糸魚川 1971・1986 の一部を使用して作成した。
液状化履歴は，「若松加奈江(2011)日本の液状化履歴マップ 745-2008（東京大学出版会）」による。
本マップには，過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが，原典（若松，2011）では，地震毎にシンボルが変えられており，また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変えられています。本マップではこれらを区別せずに同じ記号でプロットしています。